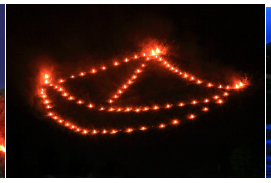
2024 年の立秋は 8 月 7 日です。
夏の暑さが少しずつ和らぎ、初秋の訪れを感じさせる時季、それが立秋です。
立秋の頃には、日本において複数の季節行事が執り行われています。

その一つが「七夕」です。
七夕は一般的には 7 月 7 日に行われますが、もともとは旧暦の 7 月 15 日ごろに行われていたため、お盆と関係が深く、現在でもお盆と同様に月遅れの 8 月 7 日に七夕を行う地域はあります。
特に名が知られているのは「仙台七夕まつり」で、2024 年は 8 月 6 日～8 日に開催されます。

　また、この時期はお盆の準備も始まり、先祖の霊を迎えるための様々な儀式や風習が各地で行われています。7 月をお盆とする地域もありますが、全国的には 8 月のお盆が一般的で 8 月 13 日～16 日と立秋の期間に当たり、お墓参りやお盆祭りなど、行事は全国各地でさまざま催されます。
盆棚をしつらえて供物を供え、盆提灯を飾ったり、迎え火や送り火などを行うところが多いです。
京都の「五山の送り火」や長崎の「精霊（しょうろう）流し」も送り火のひとつです。
五山の送り火とは、京都市内を囲む 5 つの山に、火で文字や模様を浮かび上がらせる行事です。
西から順に、鳥居形・左大文字・船形・妙法・大文字が並びます。
五山の送り火が終わるとお盆の行事も終わり、先祖の霊もあの世に帰っていきます。

鳥居形

左大文字


船形

妙法

大文字

　立秋を迎えると、日本の食文化においても季節に応じた変化がみられます。
この時期の代表的な風習として「土用の丑の日」にうなぎを食べることがあります。
うなぎは滋養強壮に良いとされており、暑中疲れを癒やし、これから訪れる秋への体調管理を意味します。
　また、秋刀魚や栗などの秋の味覚が徐々に市場に出回り始める時期でもあります。
立秋を迎えると自然界にも目に見える変化が表れます。セミの鳴き声も次第に下火になり、夜には虫の音が秋らしさを演出します。木々の葉も徐々に色づき始め、菊の花が咲くころには秋本番を迎える準備が始まっています。

8 月 19 日は「俳句の日」です。1991 年に制定されました。「は（8）い（1）く（9）」の語呂合わせ。
＜奥の細道を代表する名句のひとつ＞

荒海や佐渡によこたふ天河（あらうみやさどによこたうあまのがわ）
　夜の日本海に浮かぶ佐渡島の黒々とした島影。
　その手前でうねる日本海の荒波。二つの対比的な事象を超越するかのように、天空をまたいで天の川が横たわっている。

＜記念切手＞

　芭蕉ならではの、スケールの大きな描写。この句を詠んだとされるのは出雲崎に宿した七夕も近い 7 月 4 日（新暦 8 月 18 日）です。